

シミュレーションモデル適用事例シート

大分類	集客施設	小分類	商業施設	シミュレーションモデル名	AVENUE				
概要	適用事例名	CL 甲南交通影響評価							
	目的・概要	1)商業施設の増床による交通需要の増加と駐車場出入口の位置の変更が、前面道路、特に直近の交差点に及ぼす影響を検討する。 2)前面道路への負荷に応じて、信号制御の改良案を提案する。							
	本事例におけるモデル適用上の特徴								
対象範囲及びネットワーク	対象範囲	商業施設周辺(東西約 300m)	対象時間帯	出庫ピーク時 15:00~16:00					
	評価対象時期	商業施設開業時(平成 9 年)							
	対象道路網	一般街路ネットワーク							
	ネットワーク規模	ノード数	17	リンク数	29	起終点ノード数	11	総トリップ数	4438
		一般街路ネットワーク		交差点数	3	信号交差点数	3	道路区間数	10
		自専道ネットワーク		分岐部数	—	出入口数	—	道路区間数	—
	特記事項								
(ネットワークの概略図面を添付)									
									
入力データ	道路データ	単路部	リンク長、車線数、リンク容量、ジャム密度、自由流速度						
		交差点部	飽和交通流率、右折専用レーン長、交差点内滞留台数、車線別方向規制						
		合流部							
	信号制御	設定パラメータ	信号現示、オフセット						
		作成方法	実測						
	交通需要	設定単位	OD 交通量						
		作成方法	通過交通量: 交差点交通量と右左折直進率、将来伸び率から推定 商業施設関連交通量: 施設の発生集中交通量、方向別比率、アクセス経路から推定						
空間単位		ネットワーク端点(OD ノード、駐車場)							
時間単位		10 分単位							
車両属性区分	小型車、大型車								
その他									
モデル設定項目	スキャン方式	periodic scan 方式、1 秒/1 スキャン							
	パケットサイズ	1 台/1 パケット							
	経路選択原理	経路選択なし							
	特記事項	経路選択の余地のないネットワーク形状							
再現性検証	キャリブレーション	パラメータ	交差点流入部の飽和交通流率						
		方法	交差点の通過交通量が実測値と等しくなるようにパラメータを調整						
	検証方法	交差点通過交通量を用いた検証							
	検証用データ取得方法	実測(交通量調査)							
出力データ	1)前面道路の旅行時間 2)交差点通過台数								
記入者	所属機関・部署	(株)熊谷組 土木本部 社会システム部 交通システムグループ							
	電話	03-5261-5526	FAX	03-5261-5576	HP	http://www.kumagaigumi.co.jp/feature/its/index.html			
公表文献・資料等									